

日本語文法学会

The Society of Japanese Grammar

〈第26回大会〉

12.20 (土)

2025

12/20^土—21^日

〔会場〕専修大学 神田キャンパス

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3 丁目 8
https://www.senshu-u.ac.jp/access.html

12:30— 受付開始 10号館 7 階ホール

研究発表	A会場 10号館8階 (10081)	B会場 10号館8階 (10082)	C会場 10号館9階 (10091)	D会場 10号館9階 (10092)
13:00—13:40	〔司会〕野間 純平 (島根大学) 宮田 瑞穂 (無所属) 比喩にかかわる用法における「もう」の分析 —「もはや」との対比を踏まえて—	〔司会〕岩田 美穂 (就実大学) 角出 凱紀 (京都大学大学院生) 日本語における疑似接辞「マンモス」の発達について —用法基盤モデルに基づく分析—	〔司会〕窪田 悠介 (国立国語研究所) 坂本 瑞生 (東北大学大学院生) 山下 大希 (名古屋大学大学院生) 日本語において抽象格と形態格を区別する意義 —無助詞の分析—	〔司会〕堤 良一 (岡山大学) 松本 優 (名古屋大学大学院生) 不明確項指示用法の不定語と指示詞の照応について
13:50—14:30	米村 雪乃 (東京外国語大学大学院生) 石川県能登地方七尾方言のゼロ格について	陳 星宇 (名古屋大学大学院生) 接続助詞「と」の淵源 —同時の意を表す「と等しく」はなぜ「に等しく」でなかったか—	包 雅梅 (華東理工大学) 数量形容詞“多い”と“少ない”の非対称性 —肯定・否定極性形容詞のスケール構造の違いに基づいて—	新山 聖也 (筑波大学非常勤研究員) 結果相を表すテアル文における動作主 —動作主不在説の検討—
14:40—15:20	招待 大槻 知世 (静岡大学) 日本語の使役形式の地域差 —-(s)as, -(s)aseを中心に—	池田 来未 (神戸大学) 複合動詞「〜ツクス」の通時的変遷	李 依格 (大阪大学大学院生) 話し言葉における否定ていねい形の選択メカニズム —一般化線形混合モデルによる検討—	周 世超 (三重大学特任講師) 「さすがに」の意味・機能の細分化について

15:20—15:50 休 憩

15:50—16:30	〔司会〕中川 奈津子 (九州大学) 阪上 健夫 (東京大学大学院生) 山梨県奈良田方言の終助詞「ニ」の用法と意味機能 —理由の接続助詞からの派生過程に着目して—	〔司会〕林 淳子 (東京大学) 招待 福嶋 健伸 (実践女子大学) 古代日本語における動詞基本形の捉え方 —不完成相か、完成相か、〈未来〉を表すのか—	〔司会〕田川 拓海 (筑波大学) 孫 思琦 (総合研究大学院大学大学院生) 井戸 美里 (国立国語研究所) 窪田 悠介 (国立国語研究所) 談話戦略としての認識の是正 —カラの文末用法の分析—	〔司会〕陳 秀茵 (東洋大学) 上田 地平 (関西大学大学院生) 動詞「終わる」の意味拡張と構文の変化
16:40—17:20	李 強楠 (関西大学大学院生) 「Vてくれる/あげる」構文における恩恵と動作の受け手の重層構造が引き起こす習得困難点 —恩恵と動作の受け手の混同・二格とノタメニ格の混同において—	山下 大希 (名古屋大学大学院生) 〔移動領域〕補語の助詞標示の変遷 —非制御的な移動動詞を中心に—	黄 銘君 (北海道大学大学院生) 非情物主語における再帰的使役表現の成立可能性 —所有傾斜制約の再検討—	張 明 (川村学園女子大学) 「はといえば／はというと」はいつ使われるのか
17:30—18:10	丹野 靖大 (東北大学大学院生) 主題のみからなる疑問文について	幸松 英恵 (東京外国語大学) ノダ文の「原因・理由」提示用法の変遷について	招待 大島 デイヴィッド義和 (名古屋大学) 現代日本語の尺度的累加量化詞について —類推・添加・最低条件用法の再考—	パリハワダナ ルチラ (京都大学) 形式名詞の無助詞用法

18:30—20:00 懇親会 〔10号館16階 相馬永胤記念ホール〕

12.21 (日)

9:00— 受付開始 10号館 7 階ホール

	パネルセッション (大会委員会企画)	パネルセッション (一般)
9:30—11:30	A会場 10号館8階 (10081) 日本語学と形式意味論をつなげる —GrammarXivデータベースの活用の可能性— 〔司会〕田中 英理 (大阪大学) 1. 田中 英理 (大阪大学) 導入・背景の説明 2. 水谷 謙太 (愛知県立大学)・井原 駿 (津田塾大学) 最上級修飾語「少なくとも」をめぐる 3. 窪田 悠介 (国立国語研究所) 対比のハをめぐる	B会場 10号館8階 (10082) 方言におけるノダ相当形式の対照研究 〔司会〕野田 春美 (神戸学院大学) 1. 野田 春美 (神戸学院大学) 本パネルセッションの趣旨と概要 2. 江口 正 (福岡大学) ノダ相当形式にコピュラが現れにくい方言 —福岡県福岡市方言— 3. 田附 敏尚 (神戸松蔭大学) 複数のノダ相当形式がある方言 —青森県五所川原市方言— 4. 野間 純平 (島根大学) ノのない方言における「ノダ文」 —山梨県早川町奈良田方言・島根県出雲市平田方言—

11:30—12:50 昼食休憩

12:50—13:10 会員総会 10号館 3 階 黒門ホール (10031)

13:10—13:30 大会式典 10号館 3 階 黒門ホール (10031)

13:40—17:10	第26回大会シンポジウム (言語系学会連合共催、一般無料公開)	10号館 3 階 黒門ホール (10031)
日本語文法研究は何がどう進化しているのか		
講師 1 : 衣畑 智秀 (福岡大学) 仮説検証としての文法史研究		
講師 2 : 中俣 尚己 (大阪大学) 日本語文法研究はデータをどのように扱ってきたか		
講師 3 : 三宅 知宏 (大阪大学) 文法研究における「記述」とその展開		
コメンテーター : 田川 拓海 (筑波大学) 企画・司会 : 建石 始 (神戸女学院大学)		

主催：日本語文法学会 <https://www.nihongo-bunpo.org/>

会長：三宅 知宏

大会委員長：岡崎 友子

開催校責任者：丸山 岳彦

※ 両日とも、書籍展示・交流会場・休憩室を開設する予定です。

※ 第 26 回大会は、原則として事前の参加申し込みが必要です。大会参加費は会員で専任職にある方は 2,000 円、専任職にない方 (大学院生・非常勤職・退職者等) は 1,000 円です。当日参加の会員・非会員 (事前・当日申し込みとも) は 3,000 円です。

なお、大学の学部生は無料です (事前申し込みが望ましいが当日参加も可能。当日、受付で学生証の提示が必要)。シンポジウムのみの参加も無料です (事前申し込みが望ましいが、当日参加も可能)。書籍展示会場への入室のみの参加は無料となっています (事前申し込み不要)。

※ 予稿集をデジタル化します。参加申し込みをいただいた方に予稿集 PDF の閲覧 URL をお知らせします。

※ 大会参加申し込みの方法や、大会プログラムの更新情報は、随時、学会ホームページ (「大会」ページ)・会員一斉メールでお知らせしていきます。

